

プログラムを振り返って

出発前～前日 事前研修

★2/9日 事前研修①オンライン
タイの教育制度や社会、国民性について広島大学の牧先生から教えていただく。経済が急速に発展し、教育格差も広がっていること、大学入試も日本と同様で様々な形態があり競争も激しいこと、タイ人との交流では「信頼と共感」を大切にすること、タイでもアニメや音楽などを通じて日本文化が広く浸透していることなどを学んだ。また、現地では理数教育の推進とインクルーシブ教育がどのように共存しているかを見ると良いという視点のアドバイスをいただいた。

★2/15土 事前研修②成田
派遣団のメンバーと初めて実際に対面し、文化交流の打ち合わせなどを行う。校種の異なる教員で集まる機会は、だんだんあまりないため、教育に対する思いや各校の事情を聞くことができ、とても興味深かった。



2/16~2/22

教育省と学校訪問

★教育省(バンコク)
タイの教育目標は「Happy Learning」。日々の業務に追われ、幸せに生きるために学ぶ、という基本的なことを忘れかけていたことに気づいた。また、科学技術の発展のみを追い求めるのではなく、多様な人々と共生する社会を築きたいという姿勢がとても印象に残った。タイの教育では例えメインストリームから外れたとしても、別の道に進んで学びを続けることができる環境が数多く用意されている。

★学校訪問(ナコンパトム県)
いわゆる進学校と呼ばれる学校でも、のびのびとした雰囲気でのびのびとした笑顔を見せる生徒たちが多かった。敷地も広大で設備も素晴らしいが、生徒の特性や興味に基づいてきめ細かくカリキュラムが組まれているのが何より素晴らしい。どの学校においても、性別、民族、宗教の違いなどにこだわらず、人として生徒を受け入れて育てる姿勢がとても素敵だと思った。生涯教育に力を入れていることも印象的だった。



研修から得た学び

★広い視野と出会い
研修の良いところは改めて広い視野から物事を見る機会が与えられることだと思う。たくさんの人と出会い、考えを聞いたり、共感しあったりすることで、自分の気持ちが温まってエネルギーを得ることができる。今回の研修はまさにこうした要素が凝縮した日々だった。教員として働きながら感じていた疑問や挑戦したいことをタイの教育現場に照らし合わせて考え、多くの新しい視点を獲得することができた。

★「人として幸せに生きる」
タイの人たちは多様性に対して、欧米や日本とは全く異なる姿勢をもっている。1週間という短い期間ではあるが、寛容という言葉では表しきれない懐の深さを感じた。それは異なる存在を排除せず、特別扱いもしない、当たり前の人として向き合っている姿だった。そうした素直な姿勢が学校教育にもよく表れている。過度にルールに縛られず、誰もが幸せに生きられるよう、個々に応じて柔軟にカリキュラムを作り、国を挙げて支援しようとしていることに感動を覚えた。



学びの還元のための アクションプラン

対象と目的

対象：本校教職員、身近な人々

・タイの文化や慣習などについて知り、新しい知見を得て、視野を広げる。日本の教育について考え、今後の交流計画について共に考える契機とする。

対象：本校生徒

・身近なアジアの国に生きる人々と出会い、交流することで、アジア地域の一員としての自覚を高め、友好関係を築く姿勢を育成する。
・タイと日本の相違点について知り、より良い社会とは何なのか、どのような生き方が望ましいのかを考える契機とする。リーダーとして、より良い社会形成に貢献するために、何を学び、どう行動すべきかを考える契機とする。



方法

1

対象：本校教職員、身近な人々
・研修報告を文書、動画などで複数回共有し、成果の伝達を図る。
・探求学習の成果発表会等で校内研修の場を設け、成果の伝達と共有を図る。(実施済)

2

対象：本校生徒
・英語の授業で報告会を開く。スライドを用いて説明し、それを受けて生徒自身が感じたこと、考えたことを発表する。(実施済)

3

対象：本校生徒、教職員
・授業や部活動などでタイの生徒とメッセージのやりとりをする。Padletや実際のグリーティングカード交換を通じて自己紹介、文化交流を行う。

4

対象：本校生徒、教職員
・授業やクラブ活動などでタイの生徒とオンライン文化交流を行う。
・探求学習についてタイの生徒とオンライン情報交換を行う。

5

対象：本校生徒、教職員
・タイの教職員や生徒を本校に招へいし、交流する。または本校教職員や生徒がタイの学校を訪問する。

期待できる効果

・生徒は日々の英語学習の成果を実際の交流によって確認するとともに課題を認識して、英語学習へのさらなる意欲を高めることができる。
・生徒は多様な人々と出会い、多様性への寛容な姿勢や社会スキルを学び、地域や国に貢献するリーダーとしての自覚を高めることができる。
・生徒・教職員ともに楽しみながら異文化理解を深めることができる。
・生徒と教職員ともに、日本の教育について再考する機会を得、タイの教育から新たな視点を学ぶことができる。



HAPPY LEARNING



Education for Academic
Excellence and stability
of life

